なごや にんちしょう NEWS

H26.2 月号

発行：名古屋市認知症コールセンター
（認知症相談支援センター内）
n-renkei@samba.ocn.ne.jp

「にんちしょうNEWS」についての
ご意見・お問い合せは、コールセンター
☎763-1332（いざ身になる）
までお願いします。

名古屋市認知症コールセンター実績報告

1日当たりの平均相談件数	今年度 10・11 月	12・1 月	昨年度同期（12・1 月）
	3.5 件	**4.5 件**	2.8 件

相談ケースから…介護サービスの拒否と本人の“不安感”

『デイサービスに行って欲しいが拒否されている。仕事もあり、なんとか行ってほしいが。昼も夜も気が休まらない』（息子より）

コールセンターには、デイサービスなどの利用がすすまず、介護者が疲労困憊している相談が多くあります（図参照）。サービス利用に至っていないことで、本人の不眠、孤立感、療養上の対処がなされないことによる合併症のリスクや BPSD の悪化、ひいては介護者の疲労が増して……**悪循環を招いている場合は少なくありません。**

コールセンターとしては、傾聴し、ケア経験の豊富なスタッフのいる認知症対応デイなどの情報提供やケアマネへの相談についてお伝えしますが、具体的な事業所情報をもっていないジレンマを感じています。

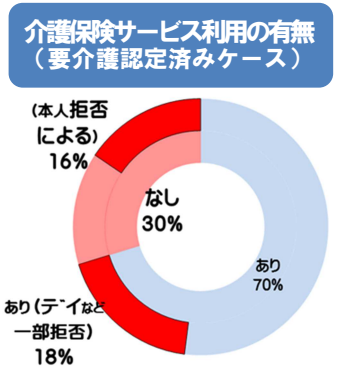
本人にとって「知らない人がいる、知らない場所へ、知らない車に乗る」お誘いだとしたら･･･拒否的な反応を示すことは当然かもしれません。

ケア経験の豊富な方は、**認知症の方の拒否的な反応には「本人の不安感」が背景にある場合が多い**と言います。その不安を取り除くには、様々な工夫と一定の時間が必要であると。

本人の不安感を“溶かす”ためには、病気の理解を前提に、**「時間」と「経験」が必要**と思われます。

本人の「不安感」が「安心感」へ――――さらには「意欲」や「楽しみ」につながる支援が「早期」に「予防的に」なされること。

それが、悪循環に陥る事態を防ぐために必要だと感じさせられます。



認知症「該当」「疑」在宅ケース
平成25年度（~12月） N=148

地域での実践より（各通所事業所へのアンケートなどからみえてくるもの）

【拒否的な方への支援】慣れていただくまでに配慮していること

…最初は訪問のことを警戒して血圧を測った後はあまりしゃべってくれなかったが、何回目かの訪問の後に、
「もの忘れで悩んでいる。老人会できついこと言われたんや」
と、ぽつんとつぶやいた。…それから１ヶ月後、デイサービスへの参加を誘いかけた看護師に言った。**「あんたがいる所なら、行ってみようかな」…**

「認知症の医療とケア」（藤本直規著）より

（写真提供：堀田デイサービス）

上記の著書では、（訪問看護などの訪問により）自宅に閉じこもっていた認知症の方 29 人中 21 人がデイサービスへの参加に同意した、と書かれています。

一方、当センターが行った通所事業所へのアンケート（※）や聞き取りでも、さまざまな対応方法が具体的に挙げられています。

訪問で顔なじみに **…何度か自宅訪問し、顔なじみの関係を作ってから利用開始できるよう配慮しています。**

個別にお迎え **…拒否的な方には個別に送迎するなど不安を取り除き、職員の元気な声と笑顔でゆっくりと信頼関係を築いてまいります。**

短時間利用から **…利用拒否がある方は、半日利用からスタートしていただき、慣れてこられましたら、1 日利用していただいています。**

帰宅願望時に散歩 **…帰宅願望出現時は職員と 1 対 1 で気が済むまで散歩していただいたりもしています。**

家族も一緒に **…ご家族と一緒だと安心される場合は無理のない範囲で、当初の間一緒にデイで過ごしてもらうよう調整する場合もあります。**

その他の回答を含めて、これらの対応には共通点――――**「不安感」が「安心感」へ変わるための対応**――――があることがわかります。

「特別なことはしていない」とスタッフの方々は語られますが、認知症ケアを日々行っている方の言葉からは、いつも多くの気づきや学びを得ることができます。

※アンケートの結果を記載した「若年性認知症相談支援なごやの手帳　別冊②～通所事業所情報編～」と「若年性認知症の利用者の受け入れに関する調査結果報告書」には拒否的な方への支援について、通所事業所による多くの具体的な記載があります。一度、ご参照いただければと思います。